

No	委員ご意見	事務局回答
1	<p>燃料の形状や種類により燃焼速度に違いが出ると思いますので、実験時の条件と使用時の厳守ルールの整合性を考えて指針になればと思います。</p>	<p>燃料の形状や種類については、当該機器の使用方法をもとに、安全側の条件で今回は実験を行っております。今回の実験の結果をもとに、機器の使用実態に即した合理的な試験方法を定めたいと考えています。</p>
2	<p>(1) 基準燃料（薪、木炭）を提案されているが、価格面も含めて簡単に入手できるのでしょうか。</p> <p>(2) 製品によっては、火力を上げるために空気を送り込むためのファンや、調理中に出る煙を吸引するファンが付いているものはあるのでしょうか。 ファンを装備している場合、そのファンの異常回転や停止で木壁に何らかの影響を与えるのでしょうか。</p>	<p>(1) 一般に流通している炭・薪を用いた試験としたいと考えております。</p> <p>(2) 事務局で調べた限り、固定式の炭焼き器で火力を上げるためのファンが附属したものや、調理中に出る煙を吸引するファンが附属するものは確認できませんでした。 仮にファンが付属している機器の場合、製品の仕様上、最も安全側の条件で試験を行っていただく必要がありますが、炭焼き器は単純な構造の機器であり、また、自動で燃料を投入する機器ではないことから現時点で試験条件に加えることは必要ないと考えていますが、今回、検討を行った試験方法は付属装置がない機器であるため、施行時の通知で注意喚起したいと考えています。</p>
3	<p>(1) 機器メーカーが想定する最大投入量を超えた量を投入可能な機器については、物理的に限界となる量を投入した試験を行うことが必要か否かを、検討していただきたい。</p> <p>(2) 燃料の追加投入を、あらかじめ熱した薪・炭で行うことや小刻みに行うことで、温度低下を可能な限り少なくしたうえで試験を行うことが必要か否かを、検討していただきたい。 また、追加投入する際の位置や、追加投入した燃料の扱い方について決めておく必要があるか、併せて検討していただきたい。</p>	<p>(1) 今回の試験では誤った使用方法での危険性の検証ではなく、通常想定されうる使用方法で最も安全側の条件とした場合に、周囲の可燃物にどのような熱影響を与えるのかという観点から、試験方法の確立を目的としております。</p> <p>(2) 今回の実験から、機器の予熱を十分に行うことで、燃料を事前に予熱することまでは必要ないことが確認されました。 また、追加投入する燃料については、安定した燃焼を維持するため、大きさをそろえて機器内に均等に投入することが重要であることがわかりましたので、施行時の通知等に補足したいと考えています。</p>